

アジア経済マンスリー(2011年7月)

～日本円はアジア通貨に対しても割高になっている～

発表日：2011年7月27日(水)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 西濱 徹(03-5221-4522)

<各国経済の現状判断>

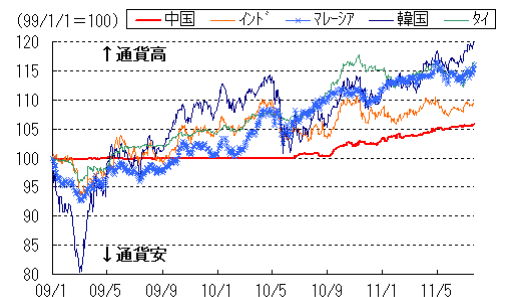
	方向性	コメント
中国	→	景気対策終了の影響は一部にみられるが、4-6月期の実質GDP成長率は前期比+2.2%延びており、個人消費や固定資本投資などがけん引。インフレや資産バブル懸念は熾るものの、景気は依然底堅く推移している。
インド	↘	インフレ圧力は高まっているが、旺盛な内需を背景に依然景気は底堅い。しかし、金融当局はインフレ抑制を金融政策の軸に据えており、金利高と物価高は先行きの景気を下押しすると見込まれる。
韓国	→	世界経済の回復を背景に輸出は堅調に推移。物価上昇による消費下押し懸念や大震災による部材調達問題が短期的な景気の下押しリスクとなる可能性はあるが、足下では底打ちの兆候もみられる。
台湾	↘	大震災による部材調達問題や水不足などが生産の制約要因となり、景気の重石になりつつある。しかし、輸出受注には底打ちの兆しもみられるなど、先行きの景気は底堅さが期待される。
香港	↘	東日本大震災による貿易縮小は景気の重石になる可能性がある。また、中国本土からの資金流入により資産バブル懸念が再び高まっており、実質的な米ドルペッグ制の下で物価政策は一段と困難になっている。
シンガポール	↘	世界経済の回復による貿易拡大で生産は急回復している。先進国景気の減速が景気の重石になる懸念はあるが、雇用・所得環境の堅調を背景に内需は堅く、年後半には貿易拡大が景気の追い風になると期待される。
マレーシア	↘	輸出は頭打ち感を強めている。しかし、今年も景気対策によるインフラ投資の拡大が見込まれるほか、資源需要の拡大は先行きの景気拡大を促すであろう。
タイ	→	総選挙の結果タクシン派が大勝利を収めたが、政治的混乱は回避されており、先行きの景気にプラスに作用しよう。次期政権の政策がインフレを加速させる懸念はあり、当局は難しい対応に直面しよう。
インドネシア	→	物価上昇圧力は熾っているが、内需は旺盛で景気は底堅い。資源需要の伸びを背景に輸出も拡大している。政治不信は熾るものの、経済への影響は限定的と見込まれ、巨額のインフラ投資は景気を下支えしよう。
フィリピン	→	世界経済の回復を背景に海外労働者からの送金は堅調であり個人消費は底堅いが、物価上昇圧力による消費への悪影響が懸念される。国内の雇用基盤は厚みがなく、自律回復に向けた課題は小さくない。
ベトナム	→	インフレ率の上昇が続き、金融政策の非整合性により通貨ドンへの信認は低下。内需は依然底堅いが、インフレ抑制に向けて金融・財政政策両面からの引き締めが必要。景気拡大とのバランス確保は困難となっている。

※方向性は、経済の見通しや政治及び政策の動向を総合的に勘案して判断した、前後1~2ヶ月のモメンタムを示しています。

《対米ドルで高値圏の推移が続くアジア新興国通貨だが、足元ではリスク回避を反映して対日本円では下落》

- 金融危機時の世界的な信用収縮の影響は、それまで海外資金の流入が続いてきたアジア新興国にも及び、アジア新興国通貨の対米ドルレートは一時的に大きく調整したものの、2009年春を底に上昇基調に転じた。その後も全世界的な金融緩和によるカネ余りや、アジア新興国の景気回復を背景とする国際商品市況の上昇により、アジア新興国においては食料品やエネルギーなどの生活必需品を中心に物価上昇圧力が高まった。結果、多くのアジア新興国は昨年以降金融引き締めへ転じており、内外金利差の拡大によって海外資金が流入してアジア新興国通貨が上昇する循環が生まれてきた。アジア新興国にとって、自国通貨高は輸入物価の抑制を通じて物価上昇圧力を緩和する効果をもたらすが、輸出競争力が低下するために急激な自国通貨高は容認しにくい環境にある。しかし、昨年秋の米国の追加量的緩和などによってさらに世界的なカネ余りが強まっているため、アジア新興国への資金の流れが強まってきた。

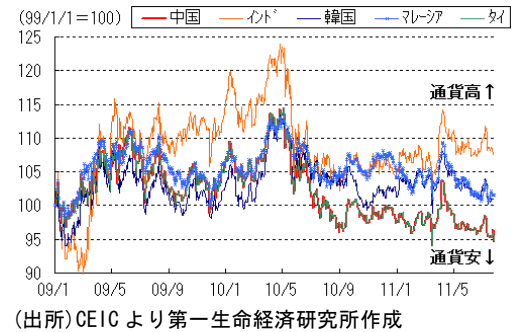
アジア通貨の対米ドル為替の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

- しかし、こうした動きの一方で日本経済にとって好ましくない状況も生まれている。欧州の債務問題などにより世界的に投資家のリスク回避姿勢が強まる中、米国では債務上限問題によって一時的なデフォルト・リスクも意識され始めており、米国景気の足腰の弱さも懸念され、投資家はリスクを取り難い状況に置かれている。結果、これまで海外資金の流入が続いてきたアジア新興国に対するリスクマネーの流入が弱まっており、一方でリスク回避資産として日本円やスイスフランなどに資金が流入していることから、多くのアジア新興国通貨は日本円に対して下落基調にある。

アジア通貨の対日本円為替の推移



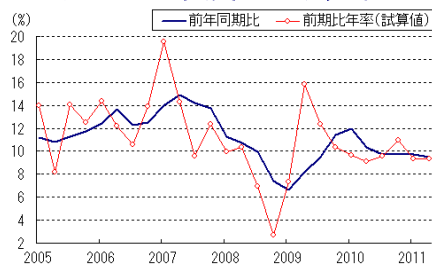
《足下の日本円の独歩高は、産業の「空洞化」をさらに加速すると懸念される》

- 日本では、東日本大震災による部材調達問題は予想以上の速さで復旧しており、今後はアジア景気の堅調を背景とする輸出の増加が景気回復を後押しすると見込まれる。しかし、足下の急速な円高により日本の輸出競争力は大きく毀損され、震災からの復興の足を引っ張る可能性がある。すなわち、足下のように日本円がアジア新興国通貨に対して高値圏で推移していることは、現地通貨ベースの製品価格の値上がり要因となることから、アジア新興国向けの輸出に悪影響を及ぼすと懸念される。特に、米ドルのみならず、輸出財において競合関係にある韓国ウォンや台湾ドルなどに対して日本円が割高になっていることは、日本企業の輸出競争力を損なう要因となろう。
- 足下では、不透明なエネルギー政策によって日本国内において信頼性の高い電力確保が難しくなっており、将来的な電力コストの上昇も避けられなくなっている。このように日本の生産立地としての優位性が低下する中、既に一部の企業ではアジア新興国への生産拠点の移転を検討する動きが出ているが、足下のように日本円がアジア新興国通貨に対して高値圏で推移する状況が長引けば、日本の「空洞化」を加速させる可能性があるだろう。
- 足下の国際金融市場では為替介入に対する視線が厳しく、ドル/円相場のような取引量の大きい市場での介入は十分な効果を得られない可能性もある上、直接的な市場への関与は必ずしも得策ではない。今後は財政面でも難しい状況が続くと予想されるが、企業を中心とする民間の経済活動こそが富を生み出す源泉であるという原点に立ち返り、周辺の競合国などと比較した上で日本国内において企業が活動し易い環境を整えることが求められる。地盤沈下をただ見守るような無為な時間を過ごすことのないよう、素早い対応が必要になっている。

＜中国主要経済指標＞

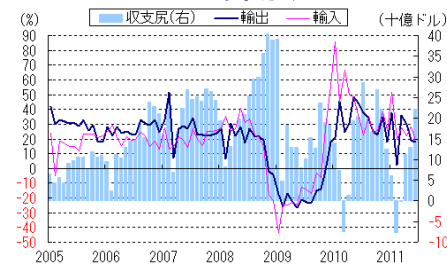
- 4-6月期の実質GDP成長率は前年同期比+9.5%と前期（同+9.7%）から鈍化した。前期比は+2.2%と前期（同+2.1%）からわずかに加速しており、不動産など固定資産投資の堅調や輸出も底堅く推移している。足下の輸入鈍化も景気の押し上げ要因となった。
- 6月の輸出額は前年同月比+17.9%と前月（同+19.4%）から伸びが鈍化したものの、単月の輸出額として過去最高を更新した。一方の輸入額は前年同月比+19.0%と前月（同+28.4%）から鈍化しており、前月比も減少した。結果、貿易収支は+222.73億ドルと前月（+130.47億ドル）から黒字幅が拡大した。

図 CH-1 実質 GDP 成長率



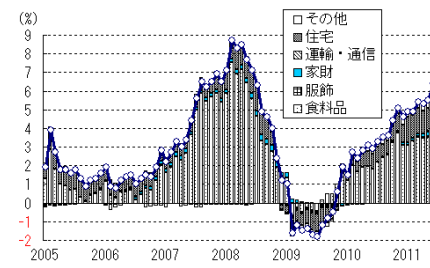
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-2 貿易動向



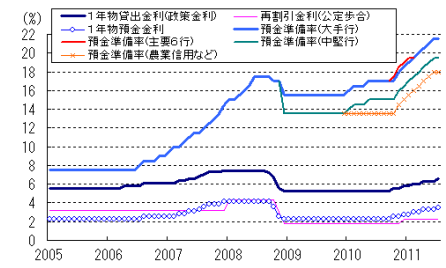
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-7 消費者物価（前年比）



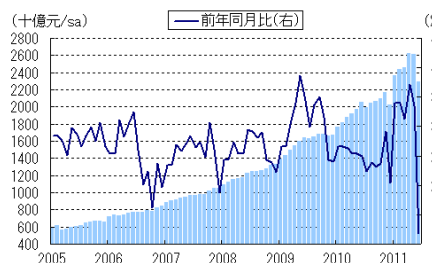
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-8 金融政策



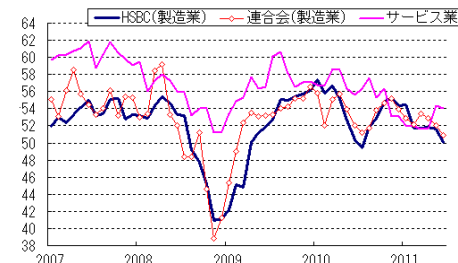
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-3 都市部固定資産投資



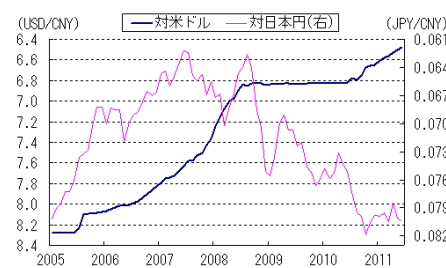
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-4 製造業・サービス業 PMI



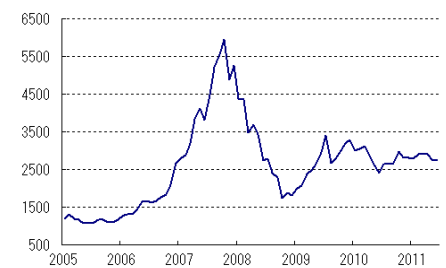
（出所）中国物流購買連合会、Markit

図 CH-9 為替相場（月次）



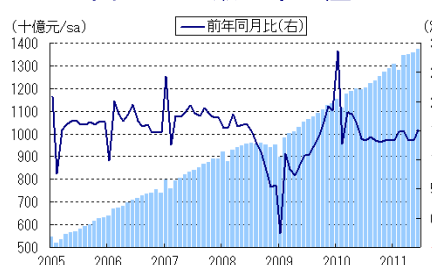
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-10 株式相場（月次）



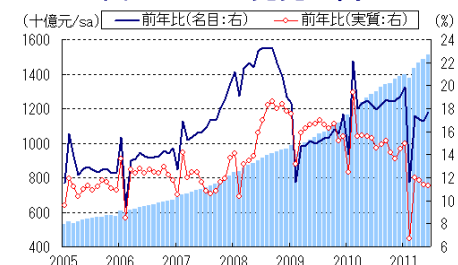
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-5 鉱工業生産



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-6 小売売上高



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-11 為替相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-12 株式相場（日次）

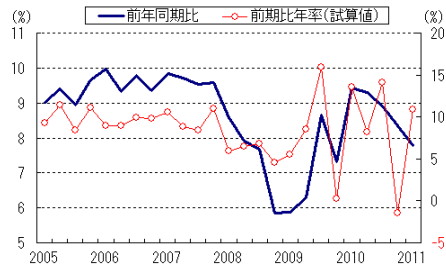


（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

＜インド主要経済指標＞

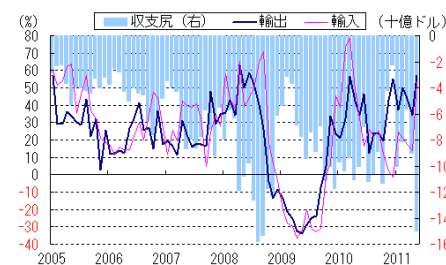
- 5月の輸出額は前年同月比+56.9%と前月（同+34.0%）から加速しており、大震災の影響で大きく落ち込んだ反動で前月比も増加している。一方の輸入も前年同月比+54.1%と前月（同+13.8%）から加速しており、原油輸入の拡大を背景に前月比も増加しており、過去最高を更新した。結果、貿易収支は▲149.66億ドルと前月（▲89.85億ドル）から赤字幅が拡大した。

図 IN-1 実質 GDP 成長率



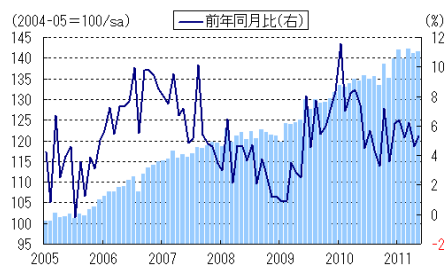
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-2 貿易動向



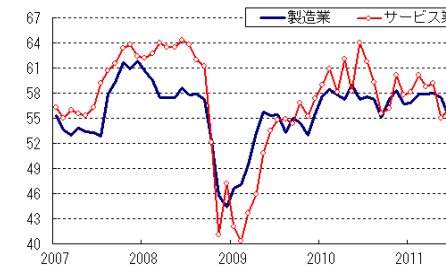
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-3 インフラ動向



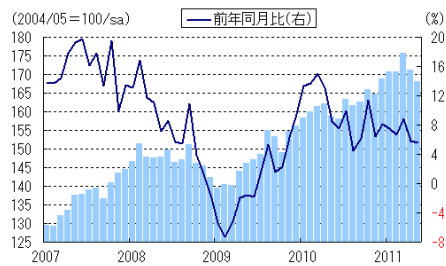
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-4 製造業・サービス業 PMI



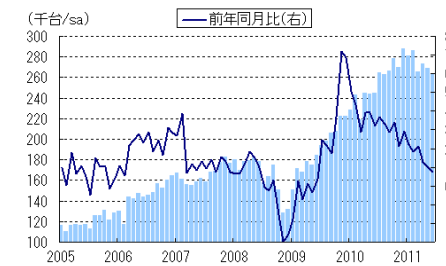
（出所）Markit より第一生命経済研究所作成

図 IN-5 鉱工業生産



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

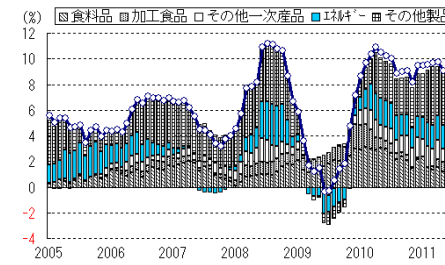
図 IN-6 四輪車国内販売台数



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

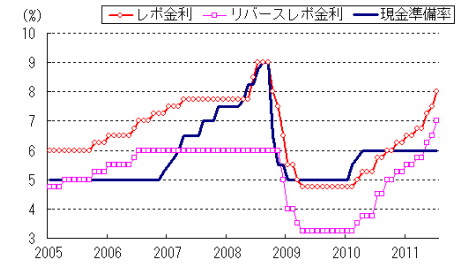
- 6月の卸売物価は前年同月比+9.44%と前月（同+9.06%）から加速した。前月比も+0.86%と前月（同▲0.26%）から上昇に転じており、食料品やエネルギーのみならず工業製品で価格上昇が進むなど、インフレ圧力は幅広い分野に拡大している。
- インド準備銀行は26日の定例会合において、政策金利であるレポ金利とリバースレポ金利を50bp引き上げ、それぞれ8.00%、7.00%とする決定を行った。これは金融危機後11回目の利上げとなり、大方の市場予想を上回る引き締めに踏み切ったことで、足下で燃えるインフレ圧力を抑える意思を明確にしている。なお、今後も引き締め姿勢は続けられよう。

図 IN-7 卸売物価（前年比）



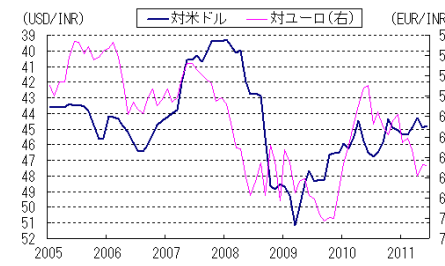
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-8 金融政策



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-9 為替相場（月次）



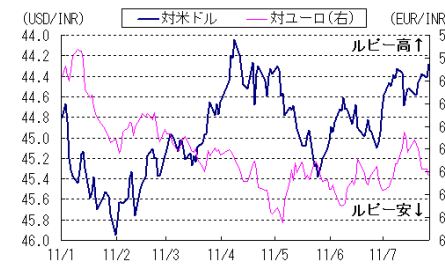
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-10 株式相場（月次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-11 為替相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-12 株式相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

＜韓国主要経済指標＞

- 6月の輸出額は前年同月比+13.6%と前月（同+22.0%）から伸びが鈍化した。前月比は増加しており、輸出環境は底堅い。一方の輸入額も前年同月比+27.5%と前月（同+30.1%）から伸びが鈍化しており、前月の反動で前月比は減少した。結果、貿易収支は+28.23億ドルと前月（+21.05億ドル）から黒字幅が拡大した。

図 KR-1 実質 GDP 成長率

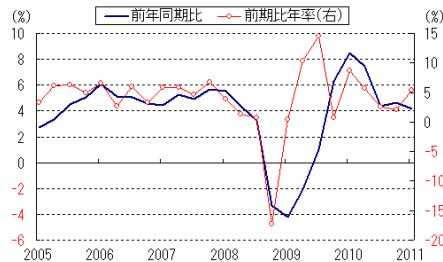


図 KR-2 貿易動向

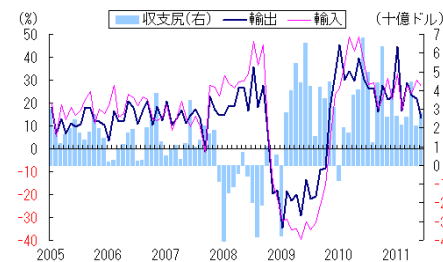


図 KR-3 出荷・在庫バランス

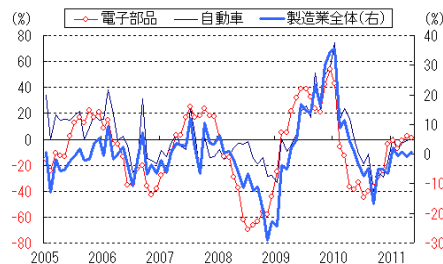


図 KR-4 鉱工業生産

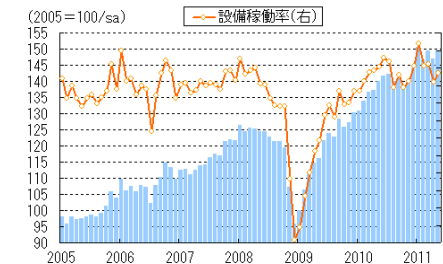


図 KR-5 雇用環境

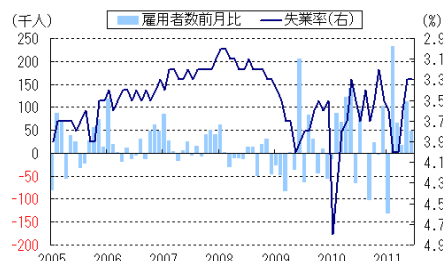
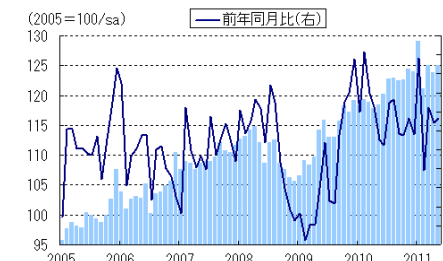


図 KR-6 小売売上高



- 6月の消費者物価は前年同月比+4.4%と、前月（同+4.1%）から加速した。ウォン高による輸入物価の抑制もありエネルギー価格は下落したが、食料品価格やサービス物価は上昇している。コア物価は前年同月比+3.7%と前月（同+3.5%）から加速しており、金融当局が定めるインフレ目標（2～4%）の上限に近付いている。
- 韓国銀行は14日、定例の金融政策委員会を開催し、政策金利を2ヶ月ぶりに3.25%に据え置いた。当局は先行きについて、需要インフレ圧力が高まるとの見通しを示したが、当面は先月に実施した利上げの影響を見極めるとした。また、不動産価格の上昇ペースは鈍化しているが、一部で上昇ペースを強めている。年内の追加利上げの必要性は高い。

図 KR-7 消費者物価（前年比）

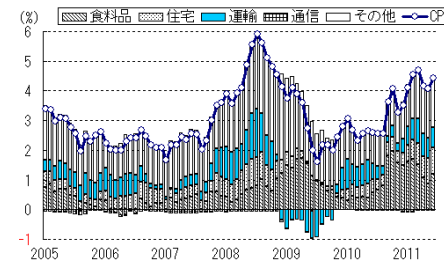


図 KR-8 金融政策



図 KR-9 為替相場（月次）

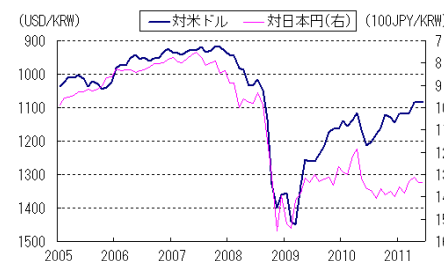


図 KR-10 株式相場（月次）



図 KR-11 為替相場（日次）

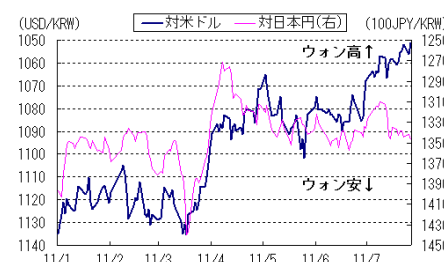


図 KR-12 株式相場（日次）



＜台湾主要経済指標＞

- 6月の輸出額は前年同月比+10.8%と前月（同+9.5%）から伸びが加速した。しかし、前月比は2ヶ月連続で減少しており、大震災の影響は依然燦っている。輸入額は前年同月比+12.5%と前月（同+19.3%）から伸びが鈍化しており、前月比も前月の増加の反動が出た。結果、貿易収支は+13.78億ドルと前月（+12.24億ドル）から黒字幅が拡大した。

図 TW-1 実質 GDP 成長率

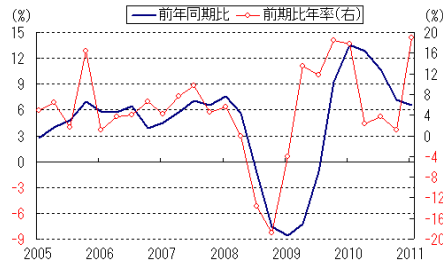


図 TW-2 貿易動向

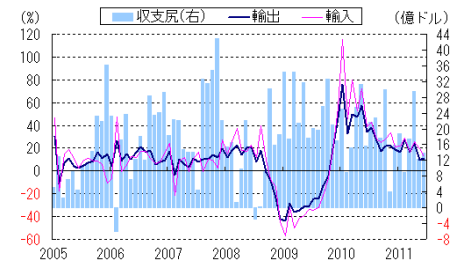


図 TW-3 出荷・在庫バランス（電子部品）



図 TW-4 鉱工業生産

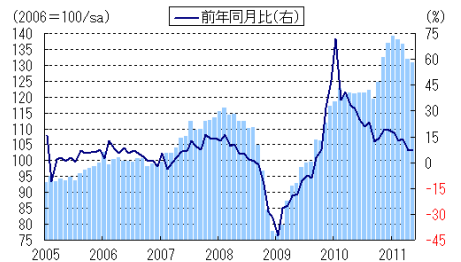


図 TW-5 雇用環境

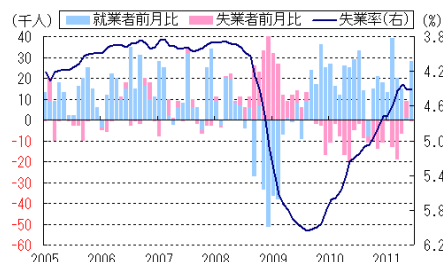
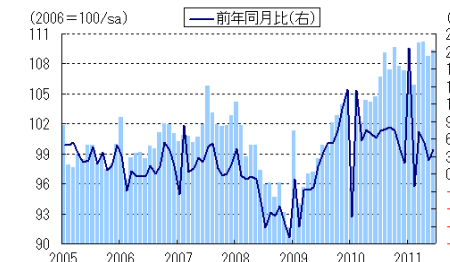


図 TW-6 小売売上高



- 6月の消費者物価は前年同月比+1.93%と前月（同+1.65%）から加速した。前月比は+0.08%とほぼ横這いであったものの、雇用・所得環境の底堅さを背景にコア物価は上昇しており、物価上昇の裾野は拡大している。台湾ドルの上昇により輸入物価の上昇圧力は緩和されているが、今後も金融引き締め姿勢を強めると見込まれる。

図 TW-7 消費者物価（前年比）

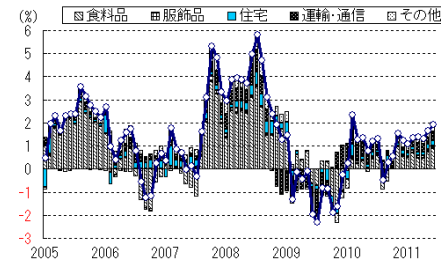


図 TW-8 金融政策

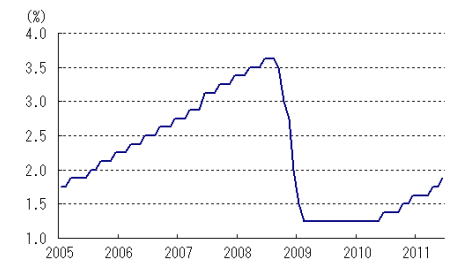


図 TW-9 為替相場（月次）

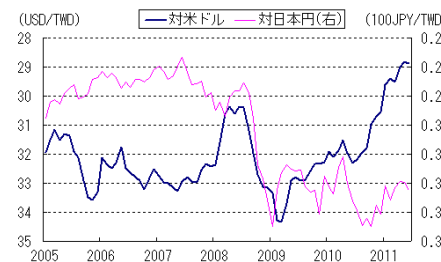


図 TW-10 株式相場（月次）



図 TW-11 為替相場（日次）



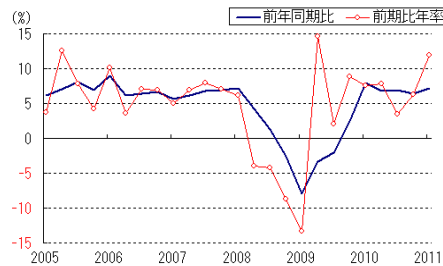
図 TW-12 株式相場（日次）



＜香港主要経済指標＞

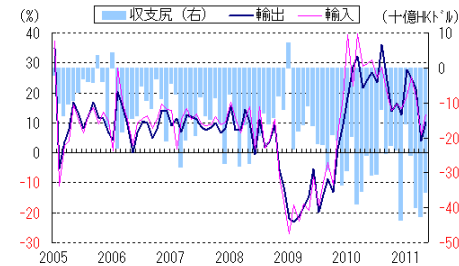
- 5月の輸出額は前年同月比+10.1%と前月（同+4.1%）から伸びが加速した。前月比は増加しており、中国経済の堅調を背景に底堅く推移している。輸入額も前年同月比+13.0%と前月（同+6.1%）から伸びが加速しており、前月比も増加している。結果、貿易収支は▲356.93億HKドルと前月（▲424.37億HKドル）から赤字幅が縮小した。

図 HK-1 実質 GDP 成長率



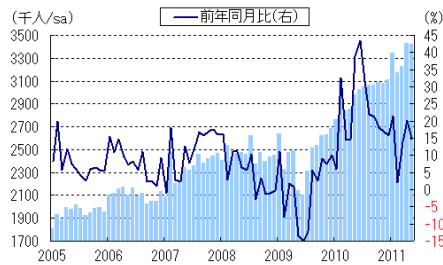
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 HK-2 貿易動向



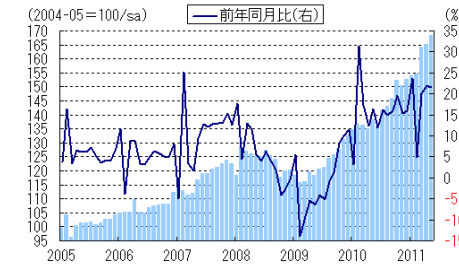
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 HK-3 来訪者数



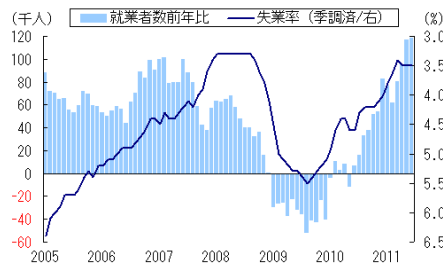
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 HK-4 小売売上高



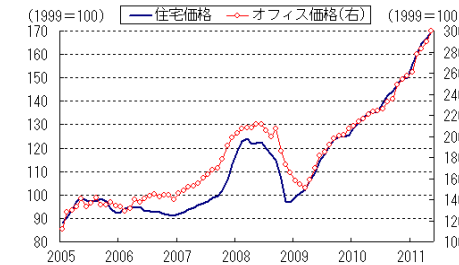
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 HK-5 雇用環境



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

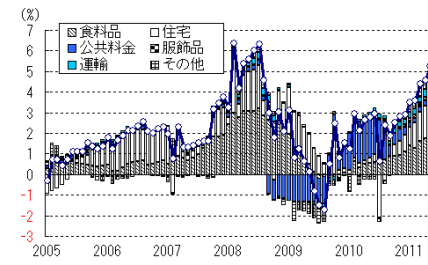
図 HK-6 不動産価格



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

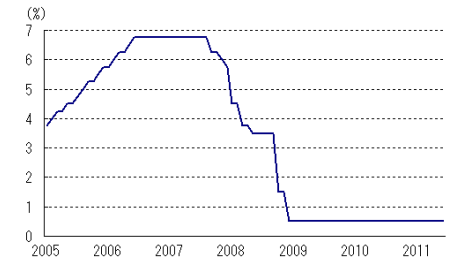
- 6月の消費者物価は前年同月比+5.6%と前月（同+5.2%）から加速し、約3年ぶりの高水準となった。前月比は+0.47%と前月（同+0.76%）から上昇ペースは鈍化しており、食料品やエネルギー価格の上昇が一服したことが影響している。一方、不動産価格は上昇が続いており、底堅い雇用・所得環境を反映してサービス価格の上昇ペースも加速するなど、物価上昇圧力は熾っている。通貨HKドルはカレンシーボード制により実質的に米ドルとペッグしており、足下の人民元高で輸入物価が押し上げられていることも物価上昇要因となっており、しばらくはこうした傾向が続くと見込まれる。

図 HK-7 消費者物価（前年比）



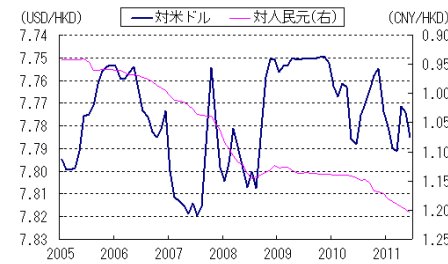
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 HK-8 金融政策



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 HK-9 為替相場（月次）



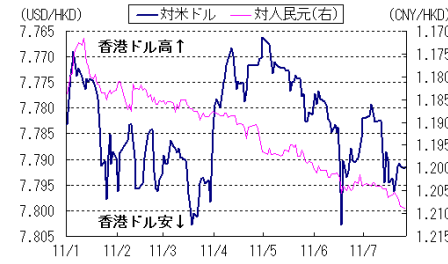
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 HK-10 株式相場（月次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 HK-11 為替相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 HK-12 株式相場（日次）

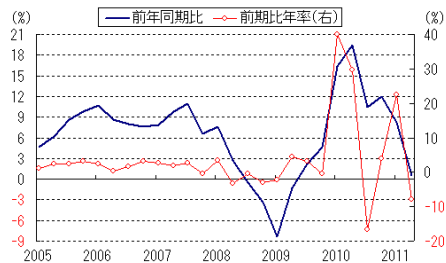


（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

＜シンガポール主要経済指標＞

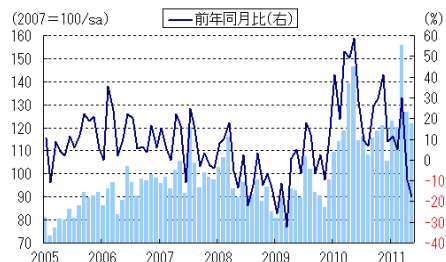
- 4～6月期の実質GDP成長率（予測値）は前年同期比+0.5%と前期（同+9.3%）から減速した。前期比年率も▲7.8%とマイナス成長に転じた。全産業で減速が顕著となっているが、特に製造業は先進国の景気減速により化学関連の落ち込みが全体を大きく下押しした。
- 6月の輸出額は前年同月比+6.2%と前月（同+9.6%）から伸びが鈍化した。前月比も2ヶ月ぶりに減少に転じた。輸入額も前年同月比+3.7%と前月（同+18.0%）から伸びが鈍化し、前月比も減少した。結果、貿易収支は+46.61億SGドルと前月（+30.42億SGドル）から黒字幅が拡大した。

図 SG-1 実質 GDP 成長率



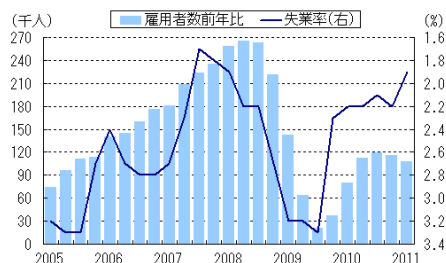
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-3 鉱工業生産



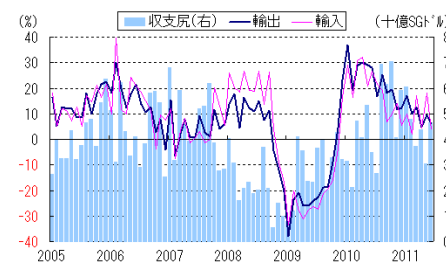
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-5 雇用環境



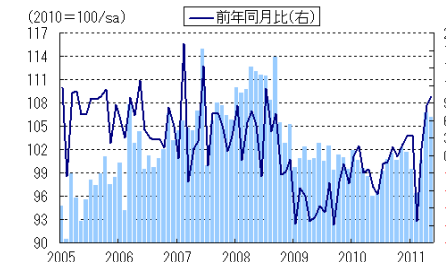
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-2 貿易動向



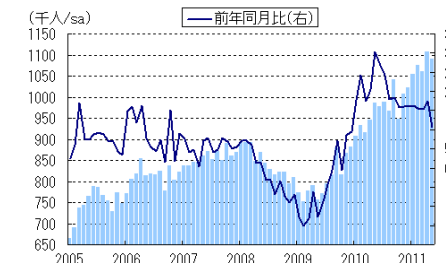
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-4 小売売上高



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

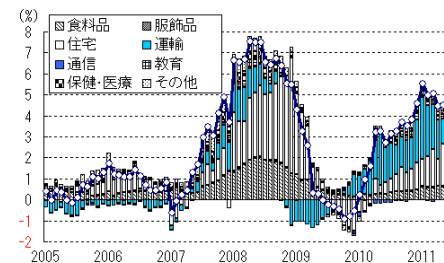
図 SG-6 来訪者数



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

- 6月の消費者物価は前年同月比+5.2%と前月（同+4.5%）から加速し、5ヶ月ぶりの高水準となった。前月比は+0.42%と前月（同+0.64%）から上昇ペースは鈍化しており、SGドル高が輸入物価を抑制したものの、食料品やエネルギー価格は上昇し、雇用・所得環境の堅調を背景に裾野の広い物価上昇が続いている。金融当局は21日、今年通年のインフレ目標を4～5%に引き上げており、しばらくは金融引き締めが続けられよう。

図 SG-7 消費者物価（前年比）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-9 為替相場（月次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-11 為替相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-8 市場金利



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-10 株式相場（月次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-12 株式相場（日次）

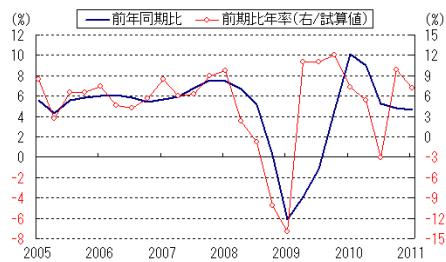


（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

＜マレーシア主要経済指標＞

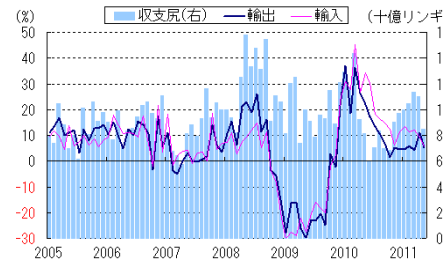
- 5月の輸出額は前年同月比+5.4%となり、前月（同+11.1%）から減速した。前月比も▲6.1%と2ヶ月連続で減少しており、大震災による部材供給問題やアジアの景気減速を背景に、輸送用機械やエネルギー資源輸出の頭打ちが影響した。部材供給問題は想定以上の速さで復旧が進んでおり、年後半にかけて輸出は先進国経済の回復も相俟って増加に転じると予想される。なお、輸入額も前年同月比+5.6%と前月（同+9.4%）から減速したが、前月比は▲0.6%と前月（同▲7.7%）から減少幅は縮小。結果、貿易収支は+84.86億リンギと前月（+110.08億リンギ）から黒字幅は縮小した。

図 MY-1 実質 GDP 成長率



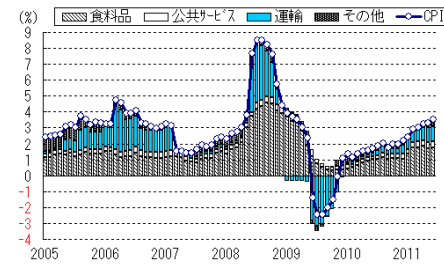
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-2 貿易動向



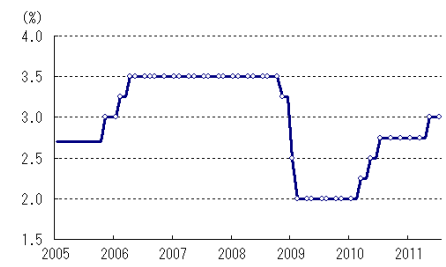
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-7 消費者物価（前年比）



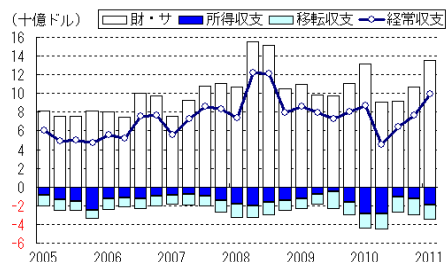
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-8 金融政策



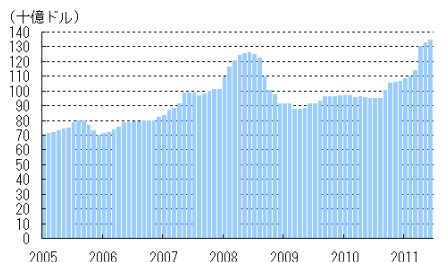
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-3 経常収支



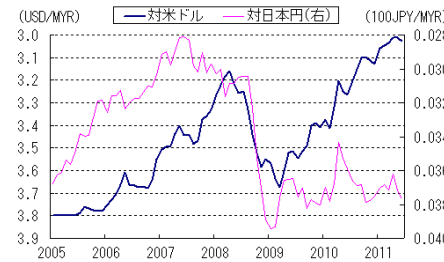
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-4 外貨準備高



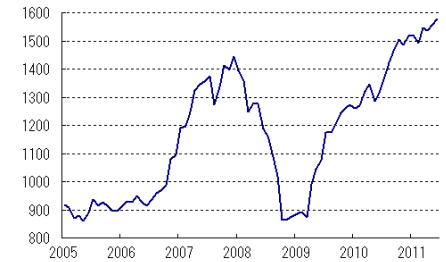
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-9 為替相場（月次）



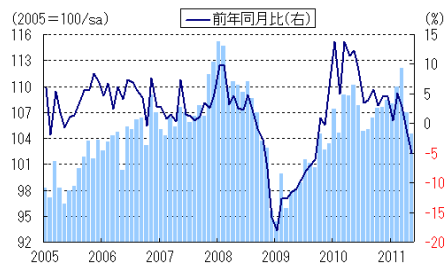
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-10 株式相場（月次）



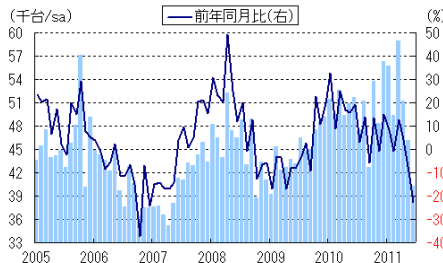
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-5 鉱工業生産



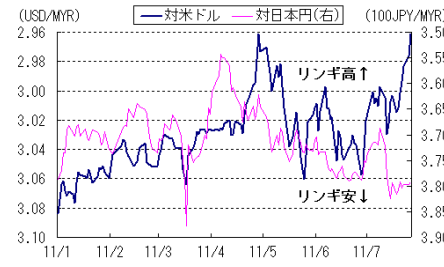
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-6 自動車販売



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-11 為替相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-12 株式相場（日次）

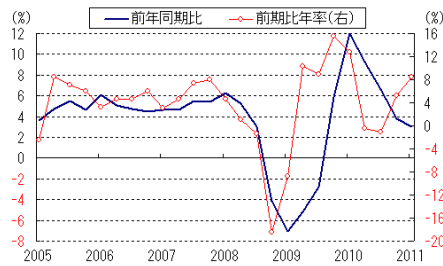


（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

＜タイ主要経済指標＞

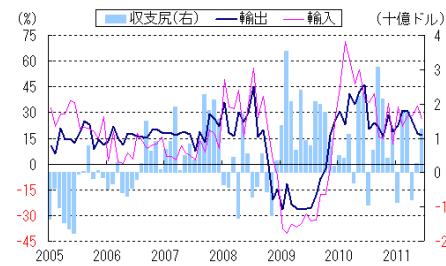
- 6月の輸出額は前年同月比+16.8%と前月（同+17.6%）から伸びが鈍化した。前月比では3ヶ月ぶりに増加に転じ、東日本大震災による部材調達問題で生産や輸出に下押し圧力が掛かっていたものの、收拾に向かっていることが確認された。大震災以降低迷が続いてきた日本向け輸出の回復も輸出をけん引した。一方、6月の輸入額も前年同月比+26.1%と前月（同+33.8%）から伸びが鈍化した。前月比ベースは2ヶ月ぶりに減少しており、前月に部材調達を急いで輸入が増加した反動が出た。結果、貿易収支は+12.68億ドルと前月（+2.78億ドル）から黒字幅が拡大した。

図 TH-1 実質 GDP 成長率



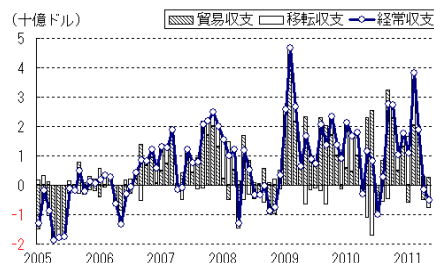
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-2 貿易動向



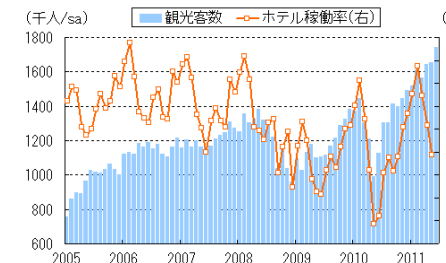
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-3 経常収支



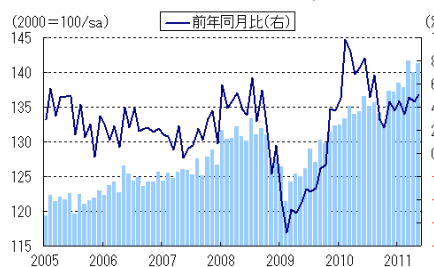
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-4 来訪者数



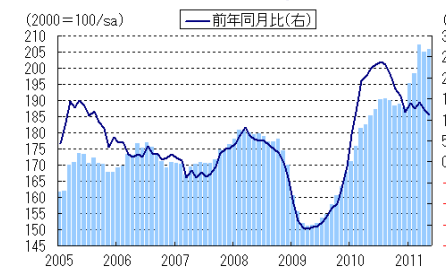
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-5 民間消費



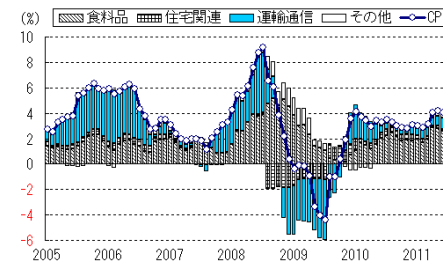
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-6 民間投資



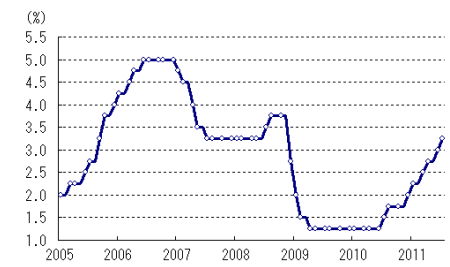
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-7 消費者物価（前年比）



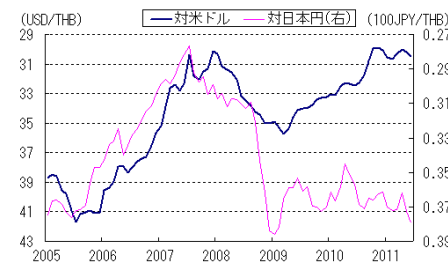
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-8 金融政策



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-9 為替相場（月次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-10 株式相場（月次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-11 為替相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-12 株式相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

＜インドネシア主要経済指標＞

- 5月の輸出額は前年同月比+45.3%と、前月（同+37.5%）から加速した。試算した季節調整値ベースの前月比は2ヶ月連続で増加しており、中国をはじめアジア新興国の旺盛な資源需要が輸出を押し上げている。輸入額は前年同月比+48.5%と前月（同+32.5%）から加速したものの、前月比は減少に転じている。結果、貿易収支は+35.09億ドルと前月（+16.66億ドル）から黒字幅が拡大している。

図 ID-1 実質 GDP 成長率

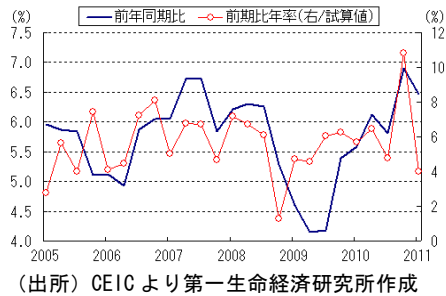


図 ID-3 経常収支

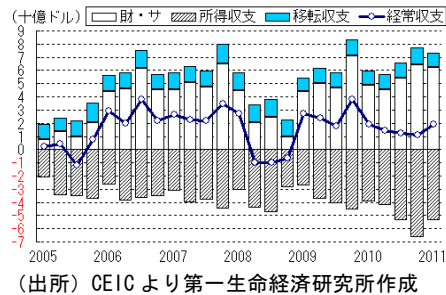


図 ID-5 鉱工業生産

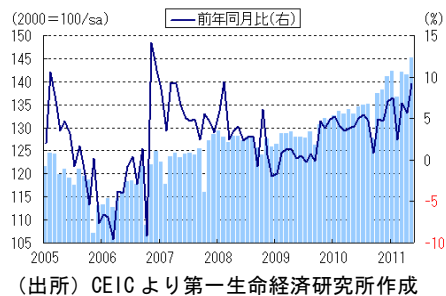


図 ID-2 貿易動向

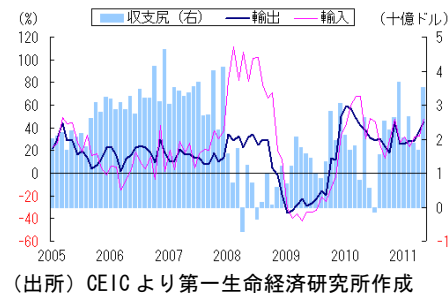


図 ID-4 外貨準備高

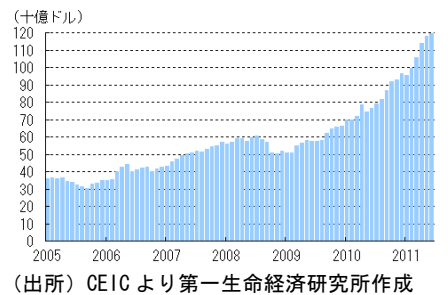
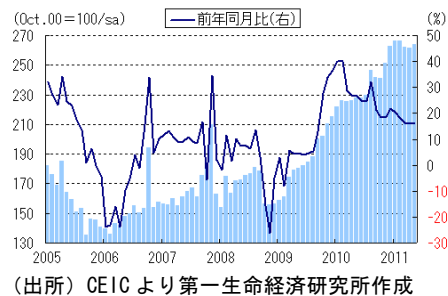


図 ID-6 小売売上高



- 6月の消費者物価は前年同月比+5.54%と前月（同+5.98%）から減速した。ただし、前月比は+0.55%と前月（同+0.12%）から上昇ペースは加速し、食料品価格が上昇に転じたほか、エネルギー価格も緩やかに上昇している。コア物価は前年同月比+4.63%と前月（同+4.64%）とほぼ横這いであったが、前月比は+0.33%と前月（同+0.27%）から加速しており、景気の堅調を背景に裾野の広い物価上昇が確認されている。
- 12日、インドネシア銀行は定例の金融政策委員会を開催し、政策金利を5回連続で6.75%に据え置いた。足下ではルピア高が物価の上昇圧力を緩和しているが、過剰流動性など物価の上昇要因は燻っており、今後も再利上げの可能性は残ろう。

図 ID-7 消費者物価(前年比)

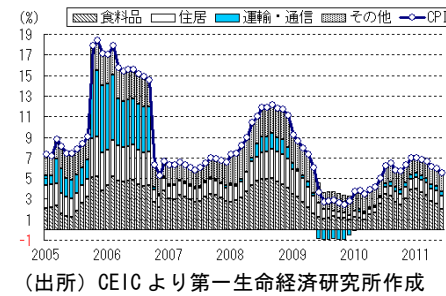


図 ID-9 為替相場(月次)

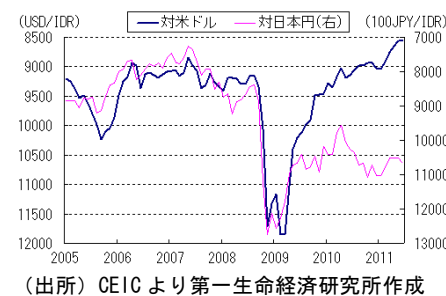


図 ID-11 為替相場(日次)

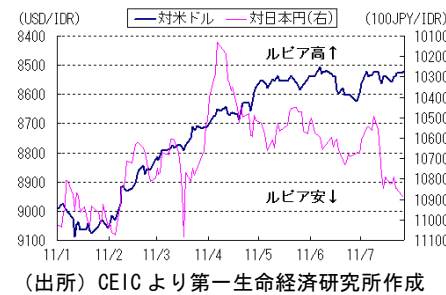


図 ID-8 金融政策

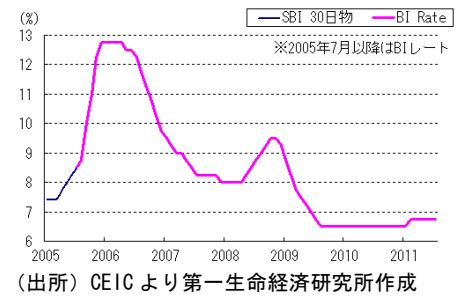


図 ID-10 株式相場(月次)



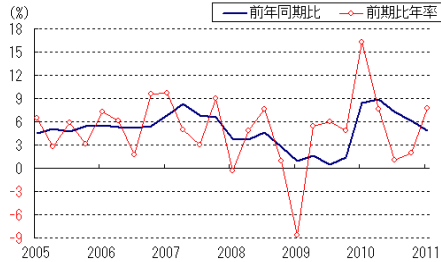
図 ID-12 株式相場(日次)



＜フィリピン主要経済指標＞

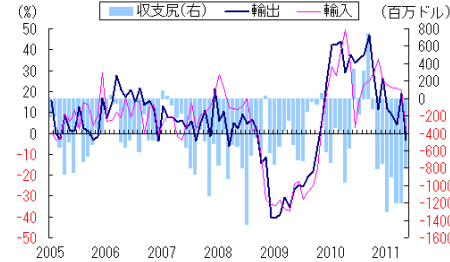
➤ 5月の輸出額は前年同月比▲3.2%と19ヶ月ぶりのマイナスとなった。前月比も減少しており、東日本大震災による部材調達問題や世界経済の減速が下押ししている。一方の輸入額は前年同月比+1.6%と前月（同+20.3%）から減速しており、前月比も減少が続いている。結果、貿易収支は▲7.84億ドルと前月（▲11.95億ドル）から赤字幅が縮小した。

図 PH-1 実質 GDP 成長率



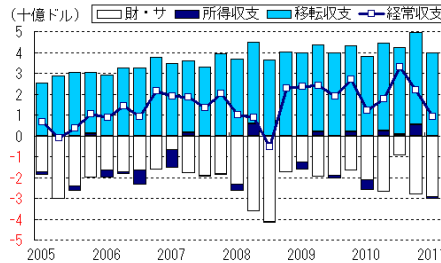
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-2 貿易動向



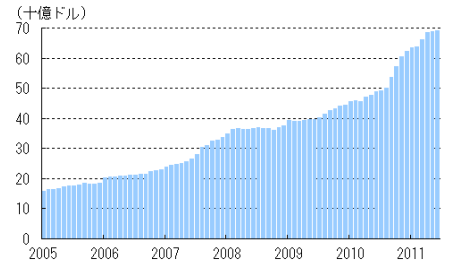
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-3 経常収支



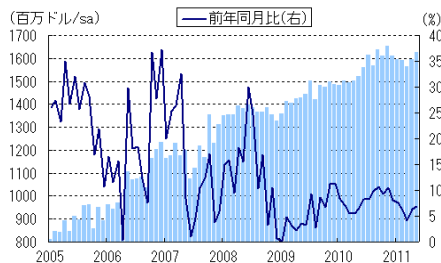
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-4 外貨準備高



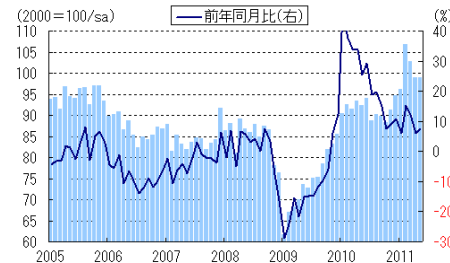
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-5 海外労働者送金



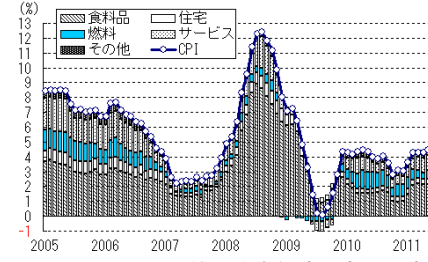
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-6 鉱工業生産



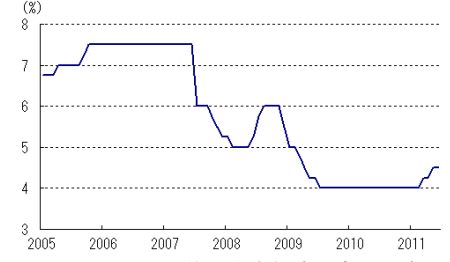
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-7 消費者物価(前年比)



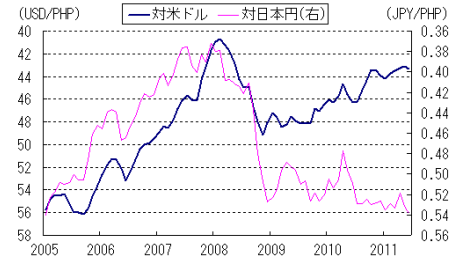
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-8 金融政策



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-9 為替相場(月次)



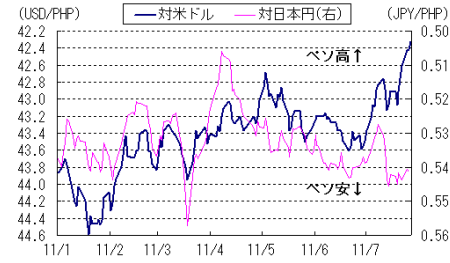
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-10 株式相場(月次)



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-11 為替相場(日次)



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-12 株式相場(日次)

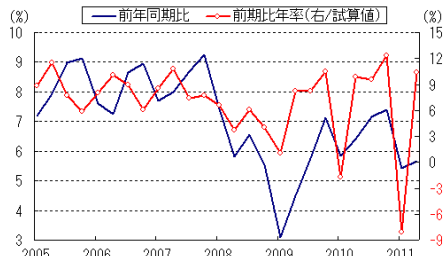


（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

＜ベトナム主要経済指標＞

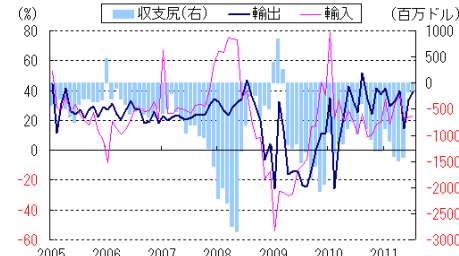
- 7月の輸出額は前年同月比+39.3%と前月（同+33.9%）から伸びが加速した。前月比はわずかに減少しており、国内資本は低迷したものの、外資企業が順調に拡大して全体を下支えた。一方の輸入額は前年同月比+22.7%と前月（同+22.1%）から加速したが、前月比はわずかに減少した。結果、貿易収支は▲2.00億ドルと前月（▲1.60億ドル）から赤字幅は拡大した。

図 VN-1 実質 GDP 成長率



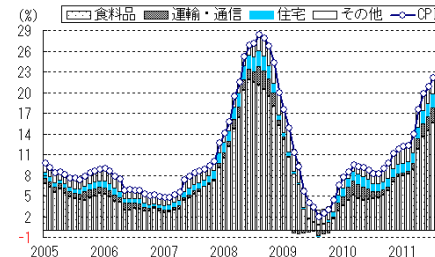
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-2 貿易動向



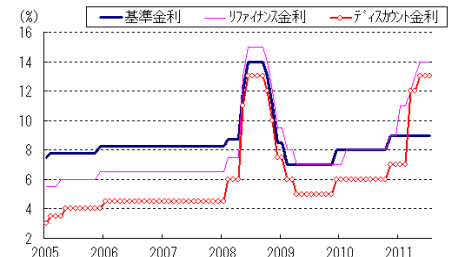
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-7 消費者物価（前年比）



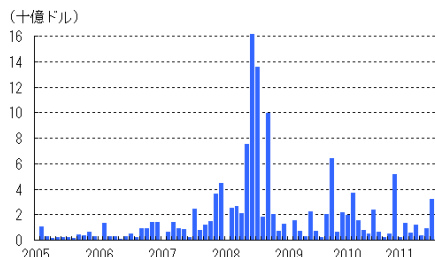
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-8 金融政策



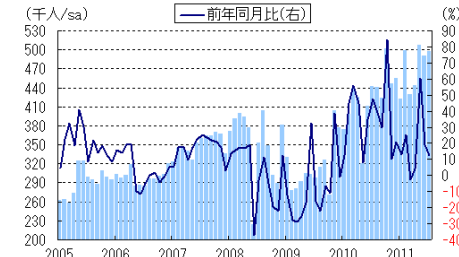
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-3 対内直接投資認可額



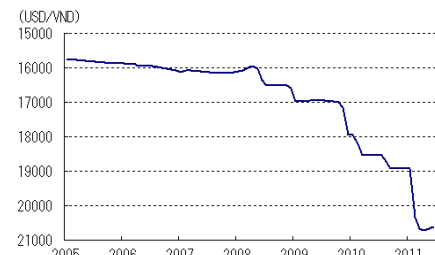
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-4 来訪者数



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-9 為替相場（月次）



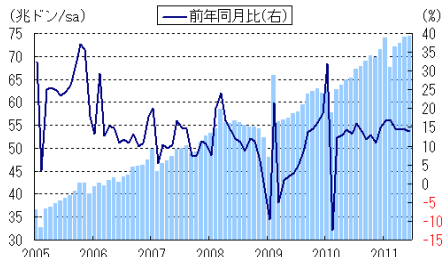
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-10 株式相場（月次）



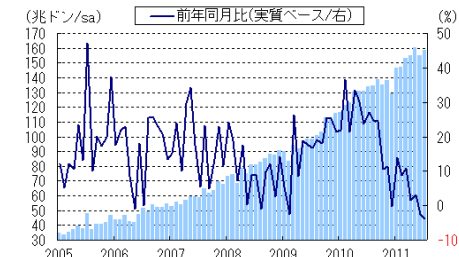
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-5 鉱工業生産



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-6 小売売上高



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-11 為替相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-12 株式相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成